

Symantec Backup Exec での ETERNUS VSS Hardware Provider サポートについて

ETERNUS VSS Hardware Provider (以降 ETERNUS VSSHP)を、富士通から購入された Symantec Backup Exec のオフホストバックアップ機能と組み合わせてご利用いただく場合は、以下の方針でサポート対応します。

1. サポート方針

- ・ お問い合わせは、富士通 SupportDesk にて受け付け対応させていただきます。対応内容は、情報提供(後述の前提条件および留意事項)と、事例ベースでの問題調査支援です。事例のない問題の調査では、フィールドご担当主導での切り分け実施を依頼する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ ETERNUS VSSHP を使用したバックアップソリューション(運用設計など)の検討は、フィールドご担当で実施いただくことが前提です。システム構築にあたり、フィールドご担当にて、どのようにバックアップするかを十分ご検討いただき、さらに事前検証されることを推奨します。
- ・ 富士通において、Symantec Backup Exec と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認した OS、サーバアプリケーション (ライターソフトウェア) は、後述の前提条件に記載の組み合わせのみです。掲載以外のサーバアプリケーションを使用する場合は、弊社営業に事前にご相談ください。
- ・ 他社から購入された Symantec Backup Exec をご利用のお客様は、販売元にお問い合わせください。

2. 前提条件

2.1 Symantec Backup Exec 2010 R2 (以降, BE 2010 R2)

- 1) ETERNUS VSSHP の版数は、以下の通りです。
 - ① ETERNUS VSS Hardware Provider 1.5.0 以降
- 2) ETERNUS VSSHP を利用した BE 2010 R2 のオフホストバックアップには、以下の製品が必要です。
 - ① Symantec Backup Exec 2010 R2
 - ② Symantec Backup Exec 2010 Agent for Windows Systems, R2
 - ③ Symantec Backup Exec 2010 Advanced Disk-based Backup Option ,R2 (以降 ADBO)

- ④ Symantec Backup Exec 2010 for Microsoft Exchange, R2 (Exchange データベースをバックアップする場合)
- 3) メディアサーバとリモートコンピュータの両方に、Windows Server 2008 がインストールされており、さらに、最新の Microsoft Volume Shadow Copy Service (以降 VSS) パッチが適用されている必要があります。
- 4) 富士通において、BE 2010 R2 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認し、サポート対象とした OS、サーバアプリケーション (ライタソフトウェア) は、以下の通りです。
- [サーバアプリケーション (ライタソフトウェア)]
- ① System Writer (NTFS ファイルシステム)
 - ② Exchange 2007 SP3 (64bit)
- [バックアップメディアサーバ OS]
- Windows Server 2008 R2 Enterprise
- [アプリケーションサーバ OS]
- Windows Server 2008 R2 Enterprise
- 5) Agent for Microsoft Exchange Server 使用時は以下のソフトウェアが必要です。
- .NetFrameWork 3.5.1
 - PowerShell 2.0
 - MS Patch
- 6) ETERNUS VSSHP を使用して Exchange のデータベースをバックアップする構成で、BE 2010 R2 がサポート対象とする構成/条件は、以下の通りです。
- ① Exchange データベースおよびログは ETERNUS のコピー元領域に配置する。
 - ② バックアップ対象は、Exchange データベースのアクティブデータのみ。
 - ③ バックアップ対象の Exchange サーバデータは、すべて VSSHP によるバックアップに統一する。
 - ④ 1つのコピー元領域に対するコピー先は1つのみ。
 - ⑤ 単一領域のデータに対する同時実行バックアップ数は1つのみ。
 - ⑥ リストア先は、バックアップ対象と同一のストレージグループへのリストアのみ。
 - ⑦ サポート構成は、非レプリケーション構成とローカル連続レプリケーション構成。

2.2 Symantec Backup Exec 12.5 for Windows Servers (以降, BEWS 12.5)

- 1) ETERNUS VSSHP の版数は、以下の通りです。
- ① ETERNUS VSS Hardware Provider 1.2.0 以降
- 2) ETERNUS VSSHP を利用した BEWS 12.5 のオフホストバックアップには、以下の製品が必要です。
- ① Symantec Backup Exec 12.5 for Windows Servers (SP2 および Hotfix 324011)

- ② Symantec Backup Exec 12.5 for Windows Servers, Advanced Disk-based Backup Option(以降 ADBO)
 - ③ Symantec Backup Exec 12.5 for Windows Servers, Agent for Microsoft Exchange Server (Exchange サーバデータをバックアップする場合)
- 3) メディアサーバとリモートコンピュータの両方に、Windows Server 2008 がインストールされており、さらに、最新の Microsoft Volume Shadow Copy Service (以降 VSS) パッチが適用されている必要があります。
- 4) 富士通において、BEWS 12.5 と ETERNUS VSSHP を使用したバックアップで動作確認し、サポート対象とした OS、サーバアプリケーション (ライタソフトウェア) は、以下の通りです。
- [サーバアプリケーション (ライタソフトウェア)]
- ① System Writer (NTFS ファイルシステム)
 - ② Exchange 2007 SP1 (64bit)
- [バックアップメディアサーバ OS]
- Windows Server 2008 Standard (x64) SP1
- [アプリケーションサーバ OS]
- Windows Server 2008 Standard (x64) SP1
- 5) Agent for Microsoft Exchange Server 使用時は以下のソフトウェアが必要です。
- .NetFramework 2.0SP1
 - PowerShell 1.0
 - MS Patch
 - MAPI & CDO
- 6) ETERNUS VSSHP を使用して Exchange サーバデータをバックアップする構成で、BEWS 12.5 がサポート対象とする構成/条件は、以下の通りです。
- ① Exchange データベースおよびログは ETERNUS のコピー元領域に配置する。
 - ② バックアップ対象は、Exchange データベースのアクティブデータのみ。
 - ③ バックアップ対象の Exchange サーバデータは、すべて VSSHP によるバックアップに統一する。
 - ④ 1つのコピー元領域に対するコピー先は1つのみ。
 - ⑤ 単一領域のデータに対する同時実行バックアップ数は1つのみ。
 - ⑥ リストア先は、バックアップ対象と同一のストレージグループへのリストアのみ。

